

もっと、 こども まんなか

education column

いま、学校教育を取り巻く環境は、大きく変わってきています。こどもたちの未来のため、教育 DX の推進や不登校児童生徒への支援、部活動の地域移行、官民一体型学校など、武雄のこれからの教育について、一緒に考えてみませんか？



VOL.04

伝える喜び、知る楽しさにつながる 英語力向上の取り組み

勉強の枠をこえて、外国語を学ぶこと

外国語を学ぶことについて、印象的だった出来事があります。佐賀県の中学生を引率して、香港での国際交流プログラムに参加した時のことです。交流会では、日本と香港の生徒が、互いの文化について伝え合う時間がありました。香港の公用語は、英語と広東語。もちろん、英語での会話となります。「得意科目は英語！」という日本の生徒たちでしたが、本番の英会話となると緊張して言葉に詰まってしまう場面も。香港の生徒はといえば、驚いたことに、英語だけでなく日本語も話していたのです。「どうやって日本語を勉強したの？」とたずねると「勉強はしていません。日本のマンガが好きなのです」と、笑顔で答えてくれました。彼らにとって「知りたい・伝えたい」気持ちが、外国語を学ぶモチベーションになっていたのです。

海外の人と触れ合うことで日本の魅力に気づく

海外の人たちと話す、母国についてたくさんのことを教えてくれます。彼らは日本についても興味津々で、さまざまな質問を投げかけます。うまく答えられずに、悔しい思いをすることもあるでしょう。そのような経験を通じて「日本についてもっと知っておきたい。伝えたい」という気持ちが、自然と湧いてくるものです。残念ながら、学校の授業だけでは、海外の人と触れ合う機会はなかなか得られません。ALT※の先生がいても、生徒全員と話すのは難しい。英語で自己紹介する活動にしても、練習相手はクラスメイト。すでに名前も趣味も知っている相手であることも。英語の練習にはなっても「伝えたい・知りたい」気持ちが湧きにくいのが課題です。

※ALT：外国語が母語である外国語指導助手のこと。
Assistant Language Teacher の略称

英語が好きになる、もっとリアルな国際交流の機会を

「こどもたちに、もっと海外の人と触れ合うチャンス」という思いで昨年度から始まったのが「オンライン英会話」です。オンライン英会話では、小中学生が、15分ずつの短いセッションを3回ほど繰り返しながら、市内在住の外国人と話します。はじめは緊張して硬い表情だった生徒も、最後にはリラックスして笑顔に。ある中学生は、オンライン英会話を体験して、英語が好きになったのだとか。家でも英語の動画を視聴し「使ってみたいフレーズ」をノートにメモしているそうです。英語が勉強の枠をこえた、ひとつの例と言えます。

市では、英語の授業に10名ほどの外国人が参加する「イングリッシュ・キャラバン」や、英語力を国際基準で測る「外部検定試験の導入」も採用しています。こどもたちが、日本のよさを知り、世界に発信できる力をつけ、未来を切り開くチャンスを増やすためにも、英語力向上に力を入れてまいります。



武雄市教育委員会 学校教育課
英語力向上事業担当
指導主事 山口 高司